

夜間中学における外国人生徒を対象とした日本語教育に関する研究

A Study on Teaching Japanese to Speakers of Other Languages
in Night Junior High Schools

新矢 麻紀子 (Shinya Makiko)

本研究の舞台である中学校夜間学級（通称、夜間中学）は、戦後、経済的困難等により昼間に労働し学校に通えない子どもたちを対象に、夜間に授業を行うことによって義務教育を保障することを目的として開設された。近年では、不登校やいじめ等で昼間の中学校に通うことなしに「形式卒業」となり、その後、「学び直し」を希望する人や、日本語を母語としない新渡日の外国人（ニューカマー）等、生徒の背景が多様化している。そして、2016年に成立し、2017年に施行された「義務教育の段階における普通教育に相当する教育の機会の確保等に関する法律」（通称：教育機会確保法）に基き、文部科学省では、夜間中学が少なくとも各都道府県・指定都市に1校は設置されるよう、その設置を促進している。2023年4月時点で23都道府県・指定都市に44校が設置されているが、2024年度には新たに7都道府県・指定都市（福島県福島市、群馬県、大阪府泉佐野市、鳥取県、宮崎市、北九州市、佐賀県、熊本県）に8校、2025年度には6都道府県・指定都市（石川県、愛知県、名古屋市、三重県、滋賀県湖南市、岡山市）に6校設置される予定であり、徐々に全国に展開されてきていることがわかる。

そのようななか、ニューカマー外国人生徒の増加は著しく、文科省の集計によれば、2022年5月時点において、全国の夜間中学に通う生徒のうちの3分の2にあたる66.7%が外国籍であると報告されている。それら外国人生徒の大部分は日本語がほぼできない状態で入学してくることから、夜間中学においては「外国人生徒への日本語教育」が大きな課題となってきた。報告者は、以前より関西の夜間中学や教員の方々と教育研究交流の機会を得ていたが、2018、2019年度に文科省が夜間中学の教職員等を対象に開催した「夜間中学における日本語指導研修会」の大阪会場（東京会場と2地域で開催）の講師を担当したことを機に、夜間中学における日本語教育体制に関する研究の必要性を認識し、2021年度、2022年度の分野別研究課題として取り組んだ。

コロナウィルス感染症拡大により、2021年度は夜間中学におけるフィールド調査は不可能に近い状態であり、2022年度も未だ教育現場への立ち入りが困難な学校が多かったものの、なんとか関西圏の2校で調査協力をいただくことができ、学校での授業見学、教員へのアンケートとインタビューを実施した。また、文献資料調査により、全国の約10校の日本語指導に関する取り組みについて情報収集を行った。これらから、2018、2019年度の日本語指導研修会当時には日本語指導に対して消極的であった関西の教員の意識が積極的になりつつあること、その一方で教員間の姿勢に差があること、日本語に大きな課題がある外国人生徒が高校進学を希望するケースが増加していることにより、

高校受験に必要な日本語能力と学力を3年間で獲得することが困難であること、学校により日本語指導体制に大きな差があること、夜間中学では未だ日本語教育の専門家の関与や協働がほとんど行われていないこと、等が明らかになった。

上記結果の一部は、「コロナ禍における日本の基礎教育保障の現状と課題—夜間中学・識字学級・日本語教室の現場より—」（棚田洋平氏との共同発表）『日韓シンポジウム「コロナ禍の基礎教育保障の現状と展望」』（2021年12月18日、オンライン）、「日本語教育・識字実践に関するさまざまな論点の整理」『社会教育学会第40回関西研究集会』（2022年6月25日、オンライン）、「外国人への第二言語としての日本語教育について考える—言語保障と多文化共生社会の実現という観点から—」『新時代の日韓共同課題フォーラム：日韓の外国人政策と多文化社会①』（2022年12月10日、オンライン）、「韓日多文化共生フォーラム～外国人とともにつくる多文化共生社会づくりのために」『新時代の日韓共同課題フォーラム：日韓の外国人政策と多文化社会②』（2023年2月26日、韓国全州）、「コロナ禍における日本の基礎教育保障の現状と課題—日本語教室・識字学級・夜間中学の現場より—」（棚田洋平氏との共著）『基礎教育保障学研究』第6号（2022年）にて報告を行った。ただし、調査結果の大部分は未発表であるため、今後、本学の論集への論文投稿や学会発表にて成果報告を行いたいと考えている。さらに、本研究課題の遂行がコロナウィルス感染症拡大の影響で長期にわたり中断されていたことから、そのキャッチアップが必要であり、また全国的に夜間中学が次々に新設され、外国人生徒がさらに増加していることから、外国人生徒への日本語教育をテーマとした研究は今後さらに必要かつ重要になってくるであろう。報告者も本研究を継続、発展させ、その成果を研究として発表するとともに、夜間中学の教育現場に還元したいと考えている。